

竹田市立中学校「制服のあり方」に関する基本的方針

竹田市内の中学校では、長年、学校ごとに決められた標準服（以下、制服）として、男子は詰襟の学生服、女子はセーラー服を着用してきた。生徒や保護者また、地域住民に学校のシンボルの一つとして親しまれ、それが愛校心や連帯感の醸成に役立っている。

しかしながら、現在の制服は、保護者の負担軽減、登下校を含め夏季時期の過ごしやすさ、性的マイノリティの方々への配慮やジェンダーの平等の視点から課題がある。

令和4年度から、学識経験者、保護者代表等を委員とした「竹田市立中学校制服あり方検討委員会」を設置して、諸課題の解決に向けて検討を行い、令和4年7月に基本的方針の提言となる中間報告を受けた。

竹田市教育委員会では、この「報告書」や「児童・生徒・保護者アンケート」を踏まえ、このたび「竹田市立中学校「制服のあり方」に関する基本的方針」を策定した。

今後、この基本的方針をもとに、経済的負担の軽減、多様性への配慮、機能性の向上等を勘案して、中学校6校統一仕様の制服の導入に向けて準備を進めるとともに、リユースをはじめ環境負荷軽減につながる取り組みも検討していく。さらに、制服そのもののあり方について、他都市の事例を研究し、生徒・保護者等の意見も伺いながら、議論を深めていく。

記

1、新制服の導入について

導入に際しては、児童・生徒及び保護者の意見を十分に取り入れられる時間と場が必要である。また制服取扱店の準備期間の確保のため配慮が必要である。

以上のことから、新標準服の導入時期は令和6年4月を目標とする。

2、導入における配慮について

上記の諸課題並びに児童・生徒、保護者の要望にできる限り対応するために、下記のことを配慮しながら新しい制服の導入・選定する。

■機能的配慮

- ・近年の気温の上昇、空調導入等による気温差に対応しやすく、また、様々な活動の支障にならない動きやすいデザイン、生地等とする。
- ・耐久性にすぐれ、洗濯やアイロンなど家庭でのケアがしやすい素材等を採用するとともに生徒の成長に対応できる仕様とする。
- ・夏服を通気性のよいポロシャツにするなど猛暑に対応したものとする。

■生徒への配慮

- ・スカートやスラックス、キュロット等が自由に選べるなど男女差のないもの等の導入により、性差のある制服を着用することに負担がある生徒への配慮を行う。
- ・防犯面からも学校名、氏名の刺繍以外での氏名表示方法を検討する。

■経済的な配慮

- ・制服価格の学校間差をなくすために、統一服とすることで、数量をこれまでより確保し、価格を有意に下げる。
- ・現行もしくは現行以下の価格設定をめざす。
- ・大手メーカーの既製品の導入も検討する。

- ・ 現行の制服に愛着を持つ生徒へ配慮するとともに個人的な制服の譲り受けを考慮し、移行（混在可）期間を導入初年度から3年間とし、新1年生においても新旧標準服が混在する期間とする。導入4年後の入学の1年生から全員新標準服とし、導入後6年目から全学年の生徒が新標準服となるようにする。
- ・ シャツ等については、学校マークなど刺繍等を不要にし、どのメーカー既製服でも着用可にするなど安価で購入できる方法を検討する。
- ・ 市全域での制服リユースの仕組みを検討する。

■ その他の配慮

- ・ デザイン選定などの時に児童生徒・保護者の意見が反映できるようにデザインアンケート等を実施する。
- ・ カーディガン着用や私服デー等子どもたちが望む取り組みを推進する。

【移行期間の標準服 イメージ】

	1年生	2年生	3年生
令和6年度（1年目）	混在可	混在可	混在可
令和7年度（2年目）	混在可	混在可	混在可
令和8年度（3年目）	混在可	混在可	混在可
令和9年度（4年目）	新制服のみ	混在可	混在可
令和10年度（5年目）	新制服のみ	新制服のみ	混在可
令和11年度（6年目）	新制服のみ	新制服のみ	新制服のみ